岩大アートプロジェクト Fwd:（フォワード）2019 ＠大沢温泉

大沢温泉×岩大 VD 研究室 コラボレーション企画展
「今昔の彼方へ」

岩手大学ヴィジュアルデザイン研究室　本村 健太

はじめに

大沢温泉菊水館は、高明橋の基礎部分の崩落により車両の通行ができず、人員の送迎や営業にかかわる資材の搬入が困難となったため、平成 30 年 10 月 1 日より休館していました。それ以来、宿泊や入浴はできなくなりましたが、令和元年 6 月 28 日、菊水館は「昔ギャラリー 茅（ちがや）」として開館しました。（大沢温泉の利用客に無料公開）

図１：岩大アートプロジェクト Fwd:「今昔の彼方へ」のチラシ（活版ディーアイ株式会社）

そこで、「デザインからアートまで」、「自己表現から地域貢献まで」を活動範囲とする岩手大学ヴィジュアルデザイン(VD)研究室が中心となり、岩大生・卒業生有志で「次に繋げる」、「前に進む」をキーワードに「岩大アートプロジェクト Fwd:（フォワード）」を立ち上げ、令和元年 9 月にコラボレーション企画展「今昔の彼方へ」を開催することにしました。

岩大アートプロジェクト Fwd:@大沢温泉は、岩手大学 VD 研究室を指導する本村健太（教授）のアートディレクションにより、梅木結一花（総合科学研究科総合文化学専攻アート発

信プログラム)、小林香純・寺田ゆりか・高橋峻・千葉雄大・中軽米真（人文社会科学部人間文化課程芸術文化専修プログラム)、三浦未佳（教育学部学校教育教員養成課程中学校教育コース美術サブコース)、卒業生の成瀬優美（ファブテラスいわて勤務)、石川令美・海老子川菜緒（活版ディーアイ勤務）がグループとなり、作品展示や制作公開を行いました。

岩手大学の学生・院生・卒業生の有志、そして本村は、「アーティスト・イン・レジデンス」として 9 月 9 日（月）から 12 日（木）まで大沢温泉に滞在し、制作風景を公開しました。（図 1 のチラシ参照）この期間は展示の作業なども並行して行い、期間中の鑑賞や取材も受けることにしていました。このような活動の結果、第 2 期特別展示として、9 月 13 日（金）からは菊水舘の客室を使ったインスタレーション・絵画・イラスト・立体の作品展示が始まりました。以下にその経緯や作品の解説を行います。(「インスタレーション」とは、空間そのものを作品とする表現のことです。)

インスタレーション「今昔の彼方へ」

今回の企画展の名称と同じインスタレーション「今昔の彼方へ」は、大沢温泉の菊水舘 2 階にある「松二」という客室で制作しました。まず最初に、大沢温泉で過去に使われていた古いものを展示に活かすという意図で、写真 1 のように、参加者全員で山水閣の倉庫に眠る漆塗りのお膳を引っ張り出し、ほこりなどの汚れをきれいにする必要がありました。(お膳を倉庫から運び出す際には大沢温泉の高田貞一社長さんにもお手伝いいただき、たいへんお世話になりました。)

写真 1：山水閣の倉庫に眠る漆塗りのお膳をきれいにする作業

長い間倉庫に入れられていたことによる頑固な汚れと格闘し、お膳はなんとか展示可能になりました。写真 2 のように、きれいにしたお膳をインスタレーションの造形素材として使用しました。それでもいまだに残る傷や汚れがありますが、そこも風合いであり、大沢温泉の歴史ゆえのものとして鑑賞していただきたいです。

写真 2：きれいにしたお膳を造形素材として使用

岩大アートプロジェクト Fwd:（フォワード）

インスタレーション「今昔の彼方へ」（大沢温泉 菊水舘 松二）

コンセプト・制作：本村健太（Dr.KENTA）・岩手大学ヴィジュアルデザイン研究室
制作協力：成瀬優美、梅木結一花、高橋峻、千葉雄大、中軽米真、三浦未佳

写真 3：お膳の五重塔は目指すべきところ

ここに並べられたお膳たちは誘（いざな）われるべき道を示しています。写真 3 のよう

に、右側のお膳は１列でまっすぐに、左側のお膳は２列で少しずつずらして並べました。これらは部屋の入り口から縁側への導線を作って訪れた人を誘います。

並べられたお膳の横には、重ねられたお膳の塊が作られています。漆塗のお膳は、45 度回して重ねることで高さが半減します。倉庫に置かれたお膳の一部はこの方法で重ねられており、参考にした重ね方です。同じように重ねるのではなく、お膳をひっくり返して重ねてみると、お膳の足がなんとも角のように見え、造形的な面白さが増しました。そうして、このように重ね、大小の塊を作ることで、古いものに宿るという「つくも神」を表現することにしました。このつくも神は、誘われる人を横から見守る存在となりました。

写真 4：「今昔の彼方へ」お膳の五重塔は目指すべきところ

写真 4 の客室縁側の中央に設置したお膳の「五重塔」は、目指すべきところを示すものとして存在感を持たせています。シンプルで整然としたあり様は緊張感をもたらします。

写真 5 のように、背後の窓ガラスには「菊水舘」の名にもある菊の花を絵描きました。菊の花のデザインは、図 2 のようにリアルになりすぎず、また文様でもない図案を事前に作り、窓の外から貼ってトレースするようにして描いています。画材はガラスにも描くことができ容易に消すこともできる「ポストチョーク」（呉竹）の白色を使いました。菊からイメージしやすい黄色などの色味を使わないことで、ストイックで格調の高い雰囲気を醸し出すことを意図しています。

二輪の菊の花の下部には数枚の花びらが散る様子が描かれ、時間の経過を示しています。

写真 5：窓には菊水舘の名にもある菊の花

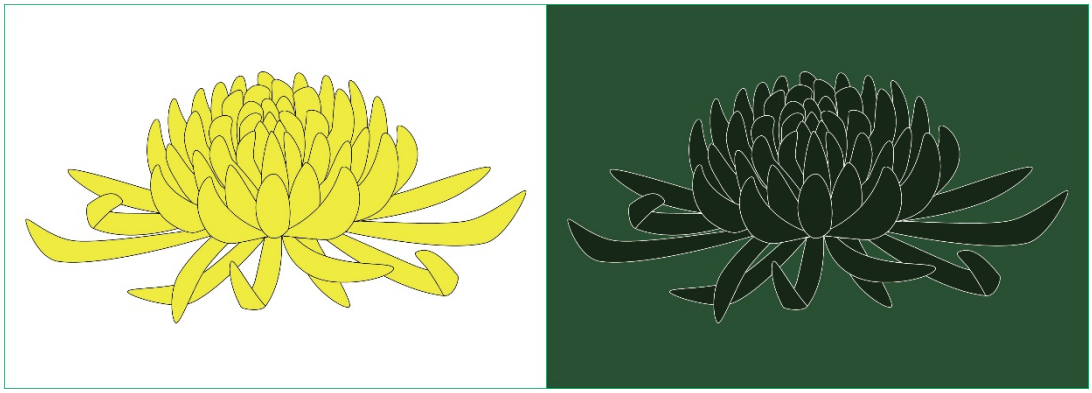

図 2：菊の花の図案を事前に作成

写真 6 のように、客室の壁には訪れた人をにらみつける「鬼の目」があります。これらは、これまでに宿泊した湯治客一人一人の痕跡です。(吊るされていたハンガーがつけた傷)

写真 6：客室の壁には入った人をにらみつける「鬼の目」

写真 7：窓の外に見える高明橋のブルーシート、障子のガラスにはピンク

写真 8：「今昔の彼方へ」の客室内では撮影、写真の SNS などへの投稿も許可

写真 7 で部屋の窓の外に写っている青い色は、崩落した高明橋の基礎部分にかけられたブルーシートです。この青いイメージは宿泊や入浴ができなくなった問題の元凶です。そのイメージを払拭するかのように、室内の障子のガラスにはピンクの色を入れています。ほんの少しのことで、室内の雰囲気がまったく異なります。

写真 8 は、レンズシートを通してインスタレーションの部屋を撮影したものです。訪れた人はこの室内に入ることもでき、説明書きのように撮影することで、写真 9 のように誘われる不思議な写真となります。ぜひ、SNS などに掲載していただきたいです。

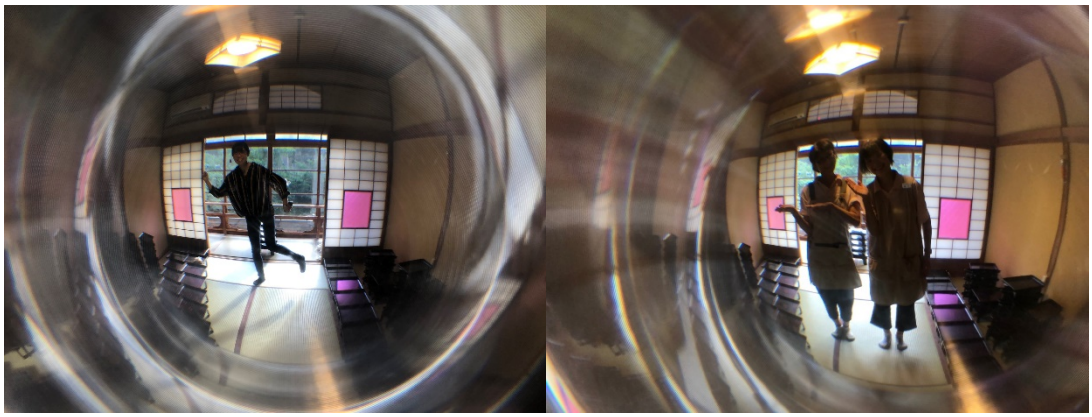

写真 9：「今昔の彼方へ」誘（いざな）われた写真の事例

アーティスト・イン・レジデンス（菊水舘「大広間」で公開制作、「松一」に展示）

今回のアートプロジェクトでは、「アーティスト・イン・レジデンス」（作家がその場に滞在して作品を制作し、その過程も公開します。）として岩大学生・卒業生有志が泊まり込みで日中は制作公開をしました。特に菊水舘 2 階の大広間では、写真 10 のように成瀬優美・梅木結一花・高橋峻・中軽米真・三浦未佳が平面作品や立体作品の制作過程を公開して、時には、訪れたお客さんからの激励や質問を受けていました。

ここでの制作において、平面では鉛筆・ペン・アクリル・水彩・パステル・マーカー、立体では油粘土など、個々人の選択で様々な画材を使用しました。作品のテーマも自由でしたが、参加者全員が大沢温泉という歴史ある場に大きな刺激を受け、それを創造的な力につなげるように制作しました。

初日・最終日が移動日であり、特に最終日は展示の最終確認と取材対応ということで、実際の制作期間は実質 2 日間ほどという短期間での作品仕上げとなりました。平面作品であればある程度工夫して仕上げることも可能ですが、立体作品のほうは時間的にも難しく、制作公開したものと最終的な展示作品については大きな隔たりがありますが、展示だけでなく、制作公開すること自体にもアートプロジェクトの意味があると考えています。

ここで出来上がった作品は、写真 11 のように菊水舘 2 階にある「松一」という客室に展示しました。

写真 10：岩大学生・卒業生による大広間での制作公開

写真 11：アーティスト・イン・レジデンスで制作した作品の展示

イラスト作品などの展示（菊水舘「竹一・二」）

今回のアートプロジェクトの実現に際しては、花巻の活版ディーアイ株式会社に勤務している岩手大学の卒業生二人（石川令美・海老子川菜緒）の存在が大きな力となりました。写真 12 のように、菊水舘 1 階の客室「竹二」に卒業生二人の作品展示をしています。

写真 12：岩大卒業生二人の参加作品

写真 13：新しい表現技法としてのイラスト作品展示

写真 13 のように、客室「竹一・二」においてイラスト展示をしています。これらはアーティスト・イン・レジデンスには参加しなかった学生、小林香純・寺田ゆりかの作品とともに千葉雄大・三浦未佳・本村健太もイラスト作品を展示しました。

文化的にも歴史ある大沢温泉のなかに、学生の若い感性や新しい表現技法を取り込んで融合させ、「今昔の彼方へ」というテーマに迫ることを意図しました。これらの作品は、「次に繋げる」という意味でも、若者や女性を主要なターゲットとして考えており、芸術という敷居を無視して、お気楽に鑑賞していただければ幸いです。

インスタレーション「ひととき」（菊水舘「南部の湯」婦人風呂）

菊水舘「南部の湯」での入浴ができなくなったことを残念に思うファンも多く、写真 14 のように本村健太の裸婦画を展示してお風呂の空間そのものを同時に鑑賞していただけるようにしました。これらの裸婦画は「水曜デッサン会」や岩手大学の集中講義においてプロの美術モデルを使用して描いた作品です。浴室は湿気で通常の絵画はダメージを受けますが、ここに展示しているのはプリント作品ですので、すぐに交換可能です。

ぜひ、作品とともにこのお風呂の空間の鑑賞をしていただき、いいお湯をいただけていた頃を懐かしく思い起こしていただければと思います。（写真撮影・SNS 投稿可です。）

写真 14：菊水舘「南部の湯」婦人風呂でのインスタレーション「ひととき」

Fwd: Gandai Art Project

大沢温泉 × 岩手大学ヴィジュアルデザイン(VD)研究室 コラボレーション企画展

「今昔の彼方へ」

大沢温泉菊水舘（大沢温泉利用客無料）

令和元年 9 月 9 日（月）から 12 日（木）まで制作現場公開
令和元年 9 月 13 日（金）展示開始

[岩手大学関連・参加アーティスト]
本村健太（人文社会科学部教授 芸術文化）
梅木結一花（総合科学研究科 総合文化学専攻 アート発信）
高橋峻・千葉雄大・中軽米真（人文社会科学部 人間文化課程 芸術文化）
三浦未佳（岩手大学 教育学部 学校教育教員養成課程 中学校美術）
成瀬優美（岩手大学卒業生・ファブテラスいわて勤務）、
石川令美・海老子川菜緒（岩手大学卒業生・活版ディーアイ勤務）
作品展示のみ：小林香純・寺田ゆりか（人文社会科学部 人間文化課程 芸術文化）

[謝辞]
大沢温泉の高田貞一様、活版ディーアイ株式会社の後藤栄樹様には、私たちにこのようなありがたい機会を与えていただき、厚く御礼申し上げます。また、アートプロジェクトをお手伝いいただいた両社の皆様、美味しいお食事をいただきました大沢温泉「お食事処やはぎ」の皆様に心より感謝いたします。